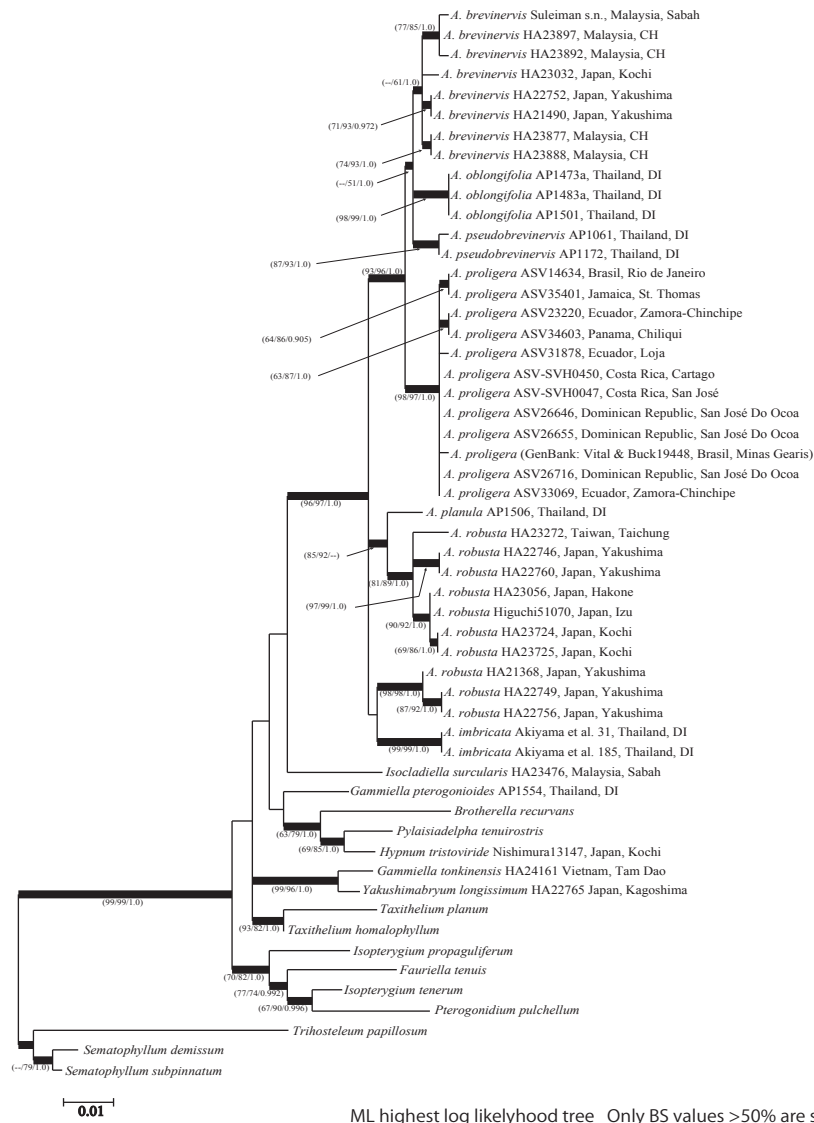


隔離分布する蘚苔類を調査する



Aptychella

広域に隔離分布する蘚苔類

コケ植物は、小さな孢子やとても軽い無性芽で増えます。小さくて軽いので、風で遠くまで飛ばされることが多く、そのために遠く離れた場所に隔離的に分布する場合があります。形の比較だけではなく遺伝的な近さを比較することで、離れた集団同士がどれほど近いかを知ることができます。蘚類のオオタマコモチイトゴケ属 *Aptychella* で調べた結果が左の図です。

Akiyama *et al.* (2015) Phylogenetic study of the genus *Aptychella* (Pylaisiadelphaceae, Musci). *Bryologist* 11(3): 273-283.

意外な結果

この研究で明らかになったおもな成果の1つは、オオタマコモチイゴケ属 (*Aptychella*) の中で唯一南米・中米だけに分布する種が、アジアに分布する種の姉妹群でだとわかったことです。それまでは南米・中米の種は独立の属として認識されていたのです。それほど遠くない過去に、アジアから孢子が飛んで分布を拡大しながら、固有の形態を獲得していったのでしょう。コケ植物ではこのような事例が他にもいくつか知られていて、現在調査中です。



広域分布する蘚苔類における地域集団間分化の解明

代表者：秋山弘之

協力者：Alfons Schaefer-Verwimp, Narin Printarakul, Monica Suleiman, Benito C. Tan, Bernard Goffinet, Kien Thai Yong and Frank Mueller
 財源：学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者